

不登校 保護者のかかわりから学ぶ

*体験者のお話を要約したものです。

- 幼稚園の年少のころから登校しぶりがあり、日曜日になると「明日から幼稚園だから嫌だ」と泣き出し、夜も寝ないと言います。親としてどうしたらよいか途方にくれました。幼稚園の先生に勧められて、キンダーカウンセラーに相談しました。「お子さんは、何事にも一生懸命やるタイプで、疲れてしまったのかもしれませんが」と接し方をアドバイスされました。「幼稚園で頑張っているんだね。すごいね。あまり頑張り過ぎなくていいんだよ」と温かく励ますようにしました。それから、少しずつ安心したのか、今では泣くことが少なくなりました。
- 私は小学校のころ、学校にいけない時期がありました。時には、「おなかが痛い」と仮病を使ったこともあります。母は、私がうそをついているのをわかっているようでしたが、「学校に行きなさい」と強く言われたことはありません。その後、少しずつ登校できるようになりました。母は、私が自主的に登校できるまで、根気強く待ち続けてくれました。
- わが子は、新しい環境や友達になじむのに時間がかかるようで、幼稚園に入園するとき、小学校に入学するときなど、登校しぶりがありました。小学校に入学してすぐ、登校する時間になると、「行きたくない」と泣き出します。そんなときは「お母さんと教室まで行って、教室に入れないようだったら帰ろうか」と声かけをして、二人で登校しました。スクールカウンセラーと相談しながら、初めは教室まで一緒に行き、次は、昇降口までというように徐々に慣れさせ、やがて通常通り登校できるようになりました。
- 私は、長男の登校しぶりをうまく乗り越えた経験がありました。スクールカウンセラーのアドバイスを受け、気長に見守りながらも毎日必ず登校だけはさせました。

ところが、次男の登校しぶりは、朝も夜も泣いて暴れる毎日で、「自分はダメ人間だ。死にたい」というまでになってしまいました。その時、同じ登校しぶりでも、子供それぞれに合ったかかわり方が必要だと気付きました。それからは、不安いっぱい
の次男に寄り添い、本人の自信を育むかかわりを心がけました。今は、笑顔で学校生活を送っています。

- わが子は、2年半、登校を渋りました。本人は、学校のことを考えると夜も眠れず、朝は不安で泣き出します。そうして、自分の部屋に閉じこもる日が続きました。その時、この子が笑顔で登校できるように、やれることはすべてやろうと決めました。親の不安は、子供に伝わると思い、まず、毎朝、心配するのではなく、「登校できたらすごい」というように余裕をもって温かく見守るようにしました。そして、登校できなかった日は、いろいろとお手伝いをさせました。登校できた日は、ものすごく褒めるようにしました。今では、元気に登校できるようになりました。